学校番号	T3003

平成３１年度　数学科

教科	数学科	科目	数学 A	単位数	2	年次	2
使用教科書	「改訂　新数学 A」　（東京書籍）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

。・場合の数や確率の面白さを知り、より数学への関心を高めてほしいです。
・授業の最後に感想を書いてほしいと思います。
・毎授業でレポート課題を課します。提出期限を守りましょう。
・できるだけ身近な生活の中に題材を求めていきます。授業で取り扱った内容のみならず、日常生活で活用できるようになってほしいです。
・定期考査は学習計画を立て、わからないところは事前に質問にくるなどして解決してください。

2　学習の到達目標

場合の数を求めるときの基本的な考え方や確率についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めることができるようにする。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:数学的な見方や考え方	c:数学的な技能	d:知識・理解
観点の趣旨	場合の数と確率に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、場合の数と確率における数学的な見方や考え方を身に付けている。	場合の数と確率において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	場合の数と確率について理解し、知識を身に付けている。
評価方法	出席状況 授業態度 観察等	授業プリント レポート 定期テスト 観察等	授業プリント レポート 定期テスト 観察等	授業プリント レポート 定期テスト 観察等

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習の活動

学期	内容	単元（題材）	学習内容	主な評価の観点 a	b	c	d	単元(題材)の評価規準	評価方法
前期	場合の数	集合	部分集合・全体集合と補集合	○			○	a:集合に関心をもつとともにそれらを事象の考察に活用しようとする。 b:集合の共通部分や和集合、要素と個数について様々なパターンで考察することができる。 c:式を用いて事象を適切に表現することや見通しをもって式を扱うことができる。 d:集合に関する用語・記号を理解し、知識を身につけている。	出席状況 授業態度 授業プリント レポート 前期末考査 観察等
			共通部分と和集合		○		○		
			集合の要素と個数		○	○	○		
		順列	順列	○	○	○	○	a:順列に関心をもつとともにそれらを事象の考察に活用しようとする。 b:和の法則や積の法則を利用していくつかのものの並べ方について考察することができる。 c:順列の考え方を利用して、いろいろな場合の数を求めることができる。 d:順列の意味を理解している。	
			順列の利用			○	○		
			重複順列		○	○			
			円順列		○	○			
		組み合わせ	組み合わせの性質	○	○			a:組み合わせに関心をもつとともにそれらを事象の考察に活用しようとする。 b:組み合わせについて様々なパターンで考察することができる。 c:組み合わせの考え方を利用して、式を用いて事象を適切に表現することや見通しをもって式を扱うことができる。 d:順列と組み合わせの違いを理解し、組み合わせの知識を身につけている。	
			組み合わせの利用		○	○	○		

後期	確率	確率の計算	確率の計算	○		○	○	a:確率に関心をもつとともにそれらを事象の考察に活用しようとする。 b:場合の数の考え方を用いて確率を考察することができる。 c:確率の加法定理や余事象の確率の式を扱うことができる。 d:確率の考え方や余事象の意味を理解している。	出席状況 授業態度 授業プリント レポート 学年末考査 観察等
			確率の加法定理		○	○			
			余事象の確率		○	○	○		
		様々な確率	独立な試行の確率	○	○	○	○	a:様々な確率に関心をもつとともにそれらを事象の考察に活用しようとする。 b:様々な確率について、考察することができる。 c:様々な確率について、それぞれの式を扱うことができる。 d:様々な確率について、その意味や使い分けを理解している。	
			反復試行の確率	○		○	○		
			条件つき確率	○	○	○	○		

※ 表中の観点について　a：関心・意欲・態度　　b：数学的な見方や考え方
c：数学的な技能　　d：知識・理解

※ 原則として一つの単元（教材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。